

## 第六回都市計画道路益城中央線連絡協議会 議事録

日時 平成30年12月7日(金) 15:00～

場所 益城町役場 仮庁舎1階 会議室1

参加者:

連絡協議会委員: 竹上会長 住永副会長 荒牧委員 宮崎委員 下田委員 吉村委員 川端委員  
森永委員 坂本委員

熊本県: 熊本県 都市計画課 益城復興事務所

事務局: 益城町復興整備課

報道関係者: 5社

【議事内容】

- (1) 開会
- (2) 会長挨拶
- (3) 県央広域本部からの説明
- (4) 意見交換
- (5) 閉会

《議事録》発言: ●事務局 △会長 ◆委員 ◇熊本県

●皆様こんにちはは定刻となりましたので都市計画道路益城中央線連絡協議会を始めます。

まず配布資料の確認を行います。

資料1 進捗状況

資料2 用地取得の概要一覧

資料3-1 広崎モデル地区 平面図

資料3-2 広崎モデル地区 標準断面図

資料3-3 安永モデル地区 平面図

資料3-4 安永モデル地区 標準断面図

資料4-1 県道熊本高森線に対する1,2の提言概要

資料4-2 道路空間形成イメージ図

資料4-3 植樹について

資料5 益城中央線整備に伴う歩行者等の安全性及び快適性に関する検討について

資料6 イメージパース図

不足はございませんでしょうか。

それでは次第に従いまして、竹上会長より挨拶をお願いいたします。

△皆様こんにちは、早いもので年の暮れとなりました。委員の方には、ご多用のところお集まりいただき誠にありがとうございます。本来ならば、11月下旬に開催の予定でしたが、私事で遅れたこと、お詫び申し

上げます。本日は用地交渉の状況等、数多くのご報告があるかと思えます。その後、意見交換を行い、16時半をめどに終わりたいと思えますのでよろしく願いいたします。

●ありがとうございました。それでは、これからの議長は竹上会長にお願いしたいと思います。お願いいたします。

△それでは熊本県より説明をお願いいたします。

◇益城復興事務所工務課街路班より説明

資料1 進捗状況

益城中央線の進捗状況についてご報告いたします。

道路付属施設等について検討を行っているところ。歩道照明設置については、安全で快適な歩道空間形成を図るため、商工会、益城町と協議し歩道照明を設置する予定。昨年10月から開始した用地交渉についても、建物調査が終わり本格化している。丈量図は95%作成済。建物調査は237件中220件(93%)承諾を頂いている。278人中93人の方の契約が済み、進捗率は約33%である。

県と町で構築した代替地情報共有システムを活用しながら、移転先選定を積極的に支援できるよう進めている。事業用地保全業務は引き続き行っている。

熊本大学ましきラボと連携し道路空間形成の検討を進めており、8月15日に提言を頂いた。今後は地区ごとのデザイン調整を行っていききたい。

工事工程計画にあたり、・沿道権利者の早期生活再建、・現道交通の安全・円滑の確保、・事業進捗に応じた整備効果の早期発現を視点として計画を進めていく。モデル地区の整備箇所としては、広崎地区約300m、安永地区約300mを候補とし、今回、第1期として、広崎地区を2箇所、安永地区1箇所の発注をしているところ。入札、契約が順調に進めば、年内に契約、来年工事着工と考えている。

資料2 地区別進捗状況

地区別の用地の進捗状況を取りまとめたもの。

例として、広崎地区は、関係者47名中22名から契約をもらっている。取得率47%である。

全体278人中93名33.5%終わっている状況。

更地の箇所から先行して取得しているので、地区ごとで差がでているが、今後は建物調査も終わり、交渉も本格化するので、さらに用地取得に努めていきたい。

資料3-1 広崎 モデル地区平面図

今回、発注した広崎地区の施工箇所を真上から見た図。図面の上が北、下が南。左が西側、右が東側。

赤着色部分が施工箇所。グレーは現道部分。

今回の発注箇所は、九州縦貫自動車道西側の県道南側、ウォッシュハウス前あたり。2工区に分割している。熊本市側から88.5mそこから東に98.5mの2工区。

現道部分は施工せず、拡幅する1車線分と歩道を施工予定。

計画道路高と高低差が生じることから、町道や民地への乗り入れ工事についても併せて施工する。

#### 資料3-2 広崎 モデル地区標準断面図

道路を輪切りにし、熊本市側から見た図。赤着色が着工場所。拡幅する1車線分の路床、下層路盤と併せて、歩道部分の電線共同溝等も施工予定。

#### 資料3-3 安永 モデル地区平面図

安永地区 図面の見方は広崎と同様。今回の工事発注箇所は、山本屋さんの新店舗の西側、豊成自動車工業さんの道向かい箇所で、延長80m。広崎地区と同様、現道部分は施工せず、拡幅部分のみ施工予定。

#### 資料3-4 安永 モデル地区標準断面図

標準断面図熊本市から見た図。図面の見方は広崎地区と同様。今回、2車線分と歩道を整備する。

工事にあたって周辺の家屋調査を行う予定。施工業者が決まりしだい周辺の方に説明会を行いたいと思っている。日程については、区長さん達にご相談したい。

用地買収の進捗に合わせて順次工事に取り掛かる予定、今後ともご協力をお願いします。

#### 資料4-1 都市計画道路益城中央線に対する12の提言

平成30年8月15日に、熊本大学ましきラボより都市計画道路益城中央線に対する12の提言を頂いた。

概要は資料4-1のとおり、大きく4つ1. 益城町の顔づくり 2. 歩行者を中心としたみちづくり  
3. 周辺へ波及するまちづくり 4. 住民と協働する仕組みづくり。

これらをどのように設計に取り入れたのかは、資料4-2をご覧ください。

#### 資料4-2 道路空間形成イメージ図

自転車歩行者道は樹木の配置で、連続的な分離を視覚的に明示し、自転車と歩行者を緩やかに分離している。

植樹については、スポット的に配置するとともに、植樹帯として、低木ではなく、芝等と組み合わせたグリーンベルト帯を計画している。

また、車道に関しては走行安全性や騒音低減効果のある排水性舗装を採用しており、沿道利用に配慮し中央にゼブラゾーンの配置を行う。

歩道については、安全で快適な歩道空間を形成するため歩道照明の設置も検討している。提言には、道路部分だけではなく、残地を活用した駐輪場やポケットパークの提案もいただいております。町とともに検討を進めているところである。

#### 資料 4 - 3 植樹帯の整備について

現在検討している樹種の例をご紹介します。

緑豊かな益城町の風景を道路整備にも取りこむこととしており、樹木は、スポット的な配置を基本とする。県内での生育実績のある樹種から選定し配置する。

常緑樹だけでなく、四季の感じられるものも取り入れたい。各地区の声も聴きながら選定していきたいと考えている。

#### 資料 5 歩行者等の安全性及び快適性に関する検討について

交通管理者の県警と協議していることをご報告します。横断施設については、総合的に評価整理し必要性等を検討している。基本的な考え方として、・無信号箇所には押しボタンの設置、・交通処理上問題ない限り既存横断歩道を維持、・歩車分離方式の採用を提案、協議している状況。

歩行者横断方式には、歩車混在と歩車分離方式があり、歩車分離方式とは自動車と歩行者の交錯なく歩行者専用の青時間があるもの。歩車分離方式にスクランブル方式があるが、スクランブル方式は斜め横断もできるもの。例として、健軍商店街入口や通町筋がスクランブル方式である。歩車分離は惣領交差点・古閑入り口交差点で検討をしており、スクランブルは木山交差点で検討し県警と協議をしている。

前回質問や懸念されていた、横断歩道の青時間についても検討をしている。一般的に横断歩道の青時間は、成人の歩行速度（1.0 m/秒）で渡るために必要な時間を踏まえ設定されている。今回は、住民の皆様からのご意見も踏まえ、高齢者等に対応した歩行速度（0.8 m/秒）で渡りきるために、必要な青時間を踏まえ協議を行っている。

横断歩道の青時間の例として、現在は横断距離約 10 m に対し、青時間は約 16 秒だが、今回の拡幅により横断距離が約 16 m になるのに対し、青時間は約 30 秒を確保したいと思っている。現在と比較すると、距離は 1.6 倍になるが、青時間は 2 倍程度確保したいと考えている。

また、4 車線化になり車の速度も上がり飛ばして危険と懸念される声もあった。車の速度についても、4 車線化後は各信号を連動させることで、交通の円滑化を図るとともに、高速走行の抑制も図れると考えています。

最後の 3 枚の資料は完成予想パースです。

以上で説明を終わります。

△ありがとうございました。それでは意見交換に入りたいと思います。ご意見のある方はいらっしゃいますか。

◆資料 3 - 1

4車線化でモデル地区を先行して作りたいとのこと、3工区を先行したいということですが、用地買収が早くできたので南側だけになったのか。南側だけでは全体のイメージがわからないのではないか。南側の用地の取得状況と北側の取得状況はどうか。この部分が北側も先行していくのか。

◇モデル地区のとらえ方、今回モデル地区は最終的には2つの地区を想定している。それぞれ300mをモデル地区と考えている。比較的用地買収が進んだ場所を選定した。ひと纏まりの用地ができたところは、追加で発注していきますので、これは初弾ということ。対面や両サイドを出すのに、もう少し時間がかかるので今後後追いで発注していきたい。来年度中に100m程度は完成させたいと考えています。

◆資料 2

取得概要ですが、惣領の27%しか取得が終わっていないのは何か要因があるのか教えていただきたい。

資料 4 - 1・4 - 2

住民の願い。照明は、地震前は商工会の力を借りてつけていた。今では倒れていたり切れていたり機能していない。

完成予想図では木で照明が隠れている。光が保てない可能性がある。街灯については検討をしていただきたい。

◇惣領・馬水については、路線全体でも商業系業務系が多い地区になる。全体として建物調査については協力を頂いている。ただし移転先の問題もある。移転先が決まらないと契約に至らない。県もテナント対策・代替地等やりくりさせていただいているところ。140件ほどご紹介はしているが、なかなか決まらないのも事実。皆さんの生活再建も考え、引き続き取り組んでいきたい。

歩道照明については、商工会で設置されていた。グリーンベルトの中に設置を考えており、県・町で話し合いをしているところ。ご指摘の通り配置を考えないと暗い部分もできる可能性があるのでそのあたりを踏まえながら、全体がうまく歩道として必要な明るさが得られるよう検討していきます。

◆資料 4 - 2

せっかく4車線化の素晴らしい道路を作るのに、バス停の切込みがない。朝は5分刻みで、バスが動いている。切込みがないと、またここで渋滞が起こるのではないか。バスの幅は2.5m程度少し切るだけで通過ができるようになる。バス停のところだけでも切込みを入れることはできないか。

◇バス停の切込みは、実際確保はできる。切込み幅は、柔軟性があります。30センチくらいならできる

範囲。そういう手段もある。そういった中でバスの切込みは、バス会社と相談した。その中で事業者側は、実際切込みは交通の円滑はあるが、バスが発進しにくくなるということもあると話を頂いた。バスの定時性のためにそういう話も合ったので切込みを入れていない。

◆切込みの長さを広げれば、可能なのではないか。切込みを20m程度取ってやれば、入れると思うが。歩道への影響も少ないはず。少し検討してもらいたい。

◇バス会社と再度検討をして、最終判断をしたいと思う。

◆高速のバス停のイメージで考えてもらいたい。

### ◆資料3-3

安永地区の山本屋のところ、バス停の切れ込みがある。これはバス会社と県でやっているの、住民意見を聞いてもらいたい。既存位置から動かすことで、住民の中で問題になるかもしれない。

モデル地区で一番心配なのは、北側が高く南側が低いこと。取り付け道路が急になるのではないか。新しく作った道路と、南側の土地の段差がすごくできるのではないか。道路を作った外側の土地との関連を詰めていただきたい。

◇バス停の位置は、地元の説明する機会を設けさせていただいて決めていきたい。今回図面は、横断施設側に寄せて設置してみた、地元の話を聞いて最終判断したい。

取り付け道路は、拡幅を決めた際に取り付け道路の勾配が急にならないように設計している。安永地区に関しては少し勾配がきつくなる箇所がある。そこは今の計画では取り付け部分を長くして、勾配を緩和している。また道路に出る際は2.5%ほどの緩い勾配で出れるように設計している。最終的には現地を確認しながら進めていきたい。

◆医療関係を心配している。かなりの病院が道路にかかるはず。そうすると住民が医療サービスを受けにくくなるのではないか。せっかく体制があるのになくなるのはどうなのか。

建てられないところに建てれるようにするなど手立てはないのか。

◇医療を集積している事例があり、医療モールを提案したが、それよりも地域バランスが重要ということで、医療モールの賛同は得られなかった。代替地を探していくしかないと考えている。駐車場等がなくなった場合周辺で協力できる方がいないかなど地道に進めているのが実情です。今後も粘り強く進めていきたい。

◆照明は、商工会の街灯組合でやっていた。現在半分以上は機能していない。町が買い上げてやるやり方や県がやるやり方等どういう風になるのか。

◇今後の設置費用は県道設備として整備していき、電気代は町のほうで負担していただくということで、進めている。LEDだと電気代も安いので設置を県が行い、町が維持管理という流れになる。

◆看板はつけられないのか。

◇つけられない。

◆33. 5%の用地交渉が終わっているが、これからが本番だと思う。双方納得できるよう進めていただきたい。

△ほかにご意見ありませんでしょうか。

△それでは、これで第6回益城中央線連絡協議会を終わります。

以上